

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793250010		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームふたば 1階		
所在地	福島県郡山市安積町荒井字茂平6-40		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山市にある双葉町指定の施設であり、双葉郡出身の職員もいる為、故郷の話も飛び交いアットホームな雰囲気の中で生活できています。利用者様同志も故郷の思い出を笑顔で語らいながら、お互い協力し合い生活されています。入居者様同士の手も良く工作や手芸など教えあいながら取り組んでいる姿も見られます。また職員の介護福祉士資格保有率が高く、専門性の高い認知症ケアを提供しています。施設には畑もあり入居者様と野菜を収穫して食事時に提供しています。皆様、手作りの野菜を「美味しい」と喜ばれており、今後も園芸療法にも力を入れていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 双葉町指定で郡山市に事業所を開設し、事業所所在地自治会に加入し、新たななじみの関係づくりに努めている。地域との交流を深め夏祭り参加やお神輿運行をいただき、ボランティアの受け入れや散歩などを通して挨拶を交わしながら、利用者が新たな地域での生活が出来るよう関係づくりに取り組んでいる。
2. 法人本部と連携し、年間を通した研修計画のもと研修を実施しており、介護福祉士資格保有職員が多く専門性に裏打ちされたサービスの提供が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念や目標について、年度末に振り返りを行い、見直しを図っている。理念は事務所に掲示し、朝礼時に唱和し、日々のケアに実践できるように取り組んでいる。	年度末に理念の振り返りと見直しを行い、地域密着型サービスを意図した理念を作成した。理念は事業所内に掲示し、朝のミーティング時に唱和しながら共有し実践している。また、理念を踏まえた目標を設け、全職員で確認しながらサービスに反映できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問やホーム行事に地域の方々を招待し交流を深めている。双葉町主催のイベントの参加もあり、馴染みの関係が継続出来るよう交流している。現在はコロナウイルス感染防止のため第三者のイベント参加等は行っていない。	地区自治会に加入し、近隣団地の祭りやお神輿運行などで交流を図っている。また、事業所行事に地域の方を招待し、三味線やオカリナ演奏等のボランティアを受け入れ交流を深めながら、新たななじみの関係づくりに取り組んでいる。今年は、新型コロナ禍により地域住民との相互交流は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練、ホーム行事等に地域の方々に参加頂いている。ホーム便りを定期的に配布し、ホームでの生活の様子をお伝えし、協力が得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	双葉町職員、自治会長、民生委員と避難先の自治会長、民生委員等の委員の方々と連携し、意見交換を行っている。意見によっては、本社との協同で反映出来るようにしている。	運営推進会議は新型コロナ禍の中、書面で定期的に開催している。利用者状況やヒヤリハット、行事報告、身体拘束適正化委員会活動等について報告し、委員から忌憚のない意見・要望・アドバイスをいただき、それをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	双葉町、富岡町、浪江町、大熊町、川内村の5町村の方を受け入れており、利用者様の状況報告やご家族様からの問い合わせ等に各町村の行政担当者や連携し対応を行っている。	町担当職員が運営推進会議に出席している。町村担当者とは、入居状況や利用者状況報告を通して、連絡を密に取り、事業所の実情を伝えながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化検討委員会」を3ヶ月に1回開催し、身体拘束のないケアに努めている。玄関は日中施錠せず、見守りやセンサーで対応している。	身体拘束適正化委員会を中心に、研修会の開催や身体拘束・不適切な対応が無いか、チェックリストで確認し、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。玄関は夜間帯の施錠だけとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についてホーム内自主勉強会や研修を受講し、周知徹底している。日頃の声掛けや言葉遣いに注意し、入居者様の尊厳を守るケアの実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる為、日頃から入居者様の意向を伝え、双方の関係が維持できるように支援している。新たに利用申請の方がおり、各関係機関等と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と一緒に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には十分に説明し、不安や意向を伺いながら納得を得ている。又、制度改正時はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症の発生以前は、ご家族様の面会時や電話、手紙等にて要望や意見を伺っている。利用者様の意見は、日頃の触れ合いの中で思いを汲み取り、スタッフ会議や定例の管理者会議で情報共有に努めている。	日常生活の中で利用者の希望や意見を聞くよう努めている。家族からは面会時や受診報告の際に、意見や要望を聞く機会を設けている。また、利用者・家族共に運営推進会議で意見等を聞き、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営法人が定期的に管理者の面談を実施し、管理者が職員の個人面談を行っている。また、本社職員が定例スタッフ会議に出席し、意見や状況把握を行っている。	管理者は、日頃から職員が意見や要望を出しやすい職場づくりに心がけており、各種会議・委員会の中で、職員の意見や提案を聞き、それを運営に反映させている。また、個別面談の実施や相談等を通して職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム査定や個人評価を実施し、給与に反映している。経験年数や資格に応じた社内外の研修や資格取得支援制度も利用でき、社員のモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己啓発を図る為自主的に研修を受ける機会が増え、研修後は伝達講習を行い、職員間で共有し意欲の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や介護事業協同組合主催の事例発表会等に参加し、職員間の情報交換や交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査し、各関係機関からの情報を得て、本人のこだわりや意向等の把握に努めている。見学も随時対応し、関係づくりに努め、一緒にお茶を共にする等対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様からの不安な事、要望等を十分に聞き取り、入居後は日常の様子を報告し、ご家族様との協力を得ながら共に支え合う信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の意向を把握し、安心してサービスを受けられるよう努めている。現在必要としている利用可能なサービスの助言を図る等対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩から学ぶという姿勢で共に生活している。教わったり、教えたり、励まし合いながら喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の誕生会やホーム行事に参加頂き、職員が全てを支援するのではなく、ご家族様にできる事はして頂き、協力を得ながら共に支え、ご家族様との絆が深まるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナウィルス感染防止の為ご家族様との面会を制限しているが、以前は同郷の知人や親戚の面会、ご家族様との墓参り、故郷の自宅までドライブされたり、従兄妹会で旅行される等、関係が継続されるよう支援している。	介護タクシーを利用して、他グループホーム入居の友人訪問や家族との墓参り・外泊等を通してなじみの関係が継続できるよう支援している。また、新型コロナ禍の中、移動販売訪問を依頼し、新たな関係づくりを行い、買い物ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の人間関係を把握し、時にはお互いの居室に招き共に過ごすこともあり、静かに見守り支援している。お世話したり、されたりとお互い共に支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の相談や問い合わせはいつでも応じており、相談内容によっては各関係機関に取り次ぎ情報提供し、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴を踏まえながら、日常生活の関わりの中で思いや希望を把握するよう努めている。利用者様の様子や変化、気づきは連絡ノートやケース記録に記入し、情報を共有し、意向に沿ったケアを心がけている。	日常生活の関わりの中から、利用者の思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は、日頃の行動や動作、表情などから本人の思いを推察し、家族からの情報を加味しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査やケアプランのモニタリング時ごとにスタッフの収集した情報を書き加え、情報収集を行っている。本人様、ご家族様の意向を伺い、今迄の生活が継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを尊重し、心身の状態把握と本人様の訴えを傾聴し、状態変化に応じた対応が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意向、希望の聞き取りに基づいてモニタリングを行い、介護計画を作成している。状態変化時、更新時等実施している。定期的に担当者でモニタリングを行いケース会議の中で情報の共有をしながら介護計画を作成している。また、その際入居者様、ご家族様からの意向等も聞き取りも行っている。	日常生活の関わりの中で、利用者の思いや希望を把握し、家族の意向を反映した介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング・カンファレンスを実施し、職員が意見を出し合い、利用者・家族の意向を確認しながら介護計画の見直しを行っている。また、心身状態等変化時は、状態変化に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきは個別に記録し、定期的に評価を行い、介護計画を見直ししている。細かな気づき、状態変化時も情報共有し、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の様子をご家族様面会時や手紙、電話等で報告し、日々の中で生じた課題を検討し、必要なサービスを利用している。訪問マッサージ・訪問看護・介護タクシー・訪問理美容の利用がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、自治会、民生委員、行政等の地域の方々との協力で安心、安全な生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様が希望する掛かりつけ医の受診と往診体制をとっている。緊急時も含め他科の受診が必要な時は家族様との協力を得て対応を図っている。	入居時、利用者・家族の希望する医療機関を決定し受診に結び付けている。かかりつけ医の受診は、家族対応であるが、往診も選択肢の一つであり、結果は、家族へ電話等で報告し、情報の共有を図っている。緊急時対応マニュアルが策定されており、夜間等安心して生活を送れる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で状態の変化や気付きは看護師に随時報告し助言を受け、適切な医療や看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に訪問しながらその都度病院関係者と情報交換し、早期退院に向けご家族様を交えカンファレンスを開催している。長期化する場合は、外泊を試みながら退院に向けての準備を進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応の指針」を説明し理解を頂いている。事業所として対応出来る事、出来ない事を利用者様、ご家族様、職員で話し合いながら方針を決めるように対応している。また、重度化した際にもご家族様へ連絡し希望に沿った支援を行っている。また、主治医とも連携、協力して対応している。	入居時に利用者、家族に対し、「重度化した場合における(看取り)指針」に沿って事業所として対応し得る内容について説明を行い同意を得ている。重度化や看取りについての判断は、主治医より家族に説明があり、家族・医師・看護師・職員等が協力し合い実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり急変や事故発生時に対応出来る体制がある。救急蘇生法の研修会も毎月行い全員が緊急時に対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他、毎月防災訓練を実施している。近年災害が増えている為、今以上に危機意識を持ち避難方法や対応に備えられるよう、様々な訓練を検討している。	年2回総合防災訓練を実施している。その他、毎月火災や地震、風水害等の昼・夜間の自然災害を想定した避難訓練を実施し、職員の防災に対する意識向上に努めている。非常時用の備蓄品としてヘルメット・毛布・布団等を用意し、水・米・缶詰・レトルト食品等も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本社主催の接遇研修に参加し、さりげない声掛けやプライバシーに配慮したケアを心がけている。気づいた時はお互いに注意しながら利用者様を尊重した言葉遣いや対応をするように努めている。	利用者が今まで歩んできた生活歴や経験、その思いを職員が良く理解し、利用者各々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応に活かしている。訴えることの難しい利用者には、職員から問いかけをして意向を汲み取るように支援している。気づきは、職員間で話し合い、より良い人間関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて解り易い言葉がけや自己決定が出来るような声掛けを心掛けている。本人の希望や思いを聞くようにコミュニケーションの機会を持ち、耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活ペースを尊重し、その時の気分や体調に配慮し、希望を取り入れ支援している。認知症により意欲低下が見られる方に対しては、気持ちに寄り添いながらゆっくりと過ごして頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや希望に応じ一緒にその日に着る洋服を選び、外出時はおしゃれを楽しむように支援している。ご家族様に衣替えを手伝って頂き、季節に合わせた服装で過ごされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材や利用者の希望を献立に取り入れながら、楽しく食事が出来るように工夫している。ホーム菜園と一緒に野菜を収穫し、下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳等利用者様の力を活かしながら準備や片付けにも参加頂いている。	食事が楽しいものになるよう利用者の培ってきた能力を味見・盛り付け・配膳・下膳等に職員と一緒に発揮して貰っている。食事は、会話をしながら楽しく進めている。メニュー・食材の手配は、業者に委託しているが、行事食等で利用者個々の嗜好を探り入れ提供している。なお、事業所菜園で収穫した野菜等を食材として活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ食事量、水分量、食事形態等に対応し、その都度の状態や体調に合わせ食事形態を変えたり、主治医のアドバイスを頂き、栄養バランスに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた口腔ケアを行い、自力で困難な方には介助を行っている。定期的に歯科医師の往診があり歯磨き指導や義歯の状態を確認し、助言を受け、口腔内トラブルが生じないように清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛け、声掛けしている。利用者様の身体機能を見極め、個々に合った方法で排泄の自立に向けた支援をしている。	利用者個々の排泄パターンや仕草、表情から排泄への意向を汲み取り、羞恥心や不安感に配慮しトイレへの声かけ誘導を図っている。トイレが各居室に設置されており、トイレでの自立した排泄が維持継続されるよう支援している。パットやリハビリパンツの使用量軽減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を心掛け、少しでも身体を動かす機会を設け、テレビ体操を1日に3回は全員参加にて行っている。食物繊維の多い食事の工夫や乳製品の摂取、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を伺いながら入浴時間、曜日を決めている。入浴剤を使用し、温泉気分に浸って頂けるようにしている。状態によってはシャワー浴、清拭を行い清潔の保持に努めている。	入浴は、週2～3回を目標に支援しており、利用者の希望や生活習慣、体調等を考慮し、日時を決定している。入浴が楽しいものになるよう会話を交わしながら、時には、入浴剤を使用し、温泉気分を味わってもらい支援している。また、季節を感じて貰えるようゆず湯、菖蒲湯等も採り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息出来るように支援している。また日中の活動を声掛けし、夜間安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々の内服薬について職員が良く理解し、処方内容の変更があった場合は、職員間で情報を共有し、内服後の状態変化は十分に観察を行い主治医、薬剤師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技、個々の持てる能力を発揮して頂いている。掃除、調理、他者のお世話役等毎日の仕事を継続し、役に立っている喜びが感じられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスもあり頻度は減っているが天候や体調に配慮しながら、移動販売での買い物に出掛けたり散歩等行っている。ご家族様にも協力頂き、リモートでの会話や入居者様を書いたハガキなどを送付している。	例年、年間行事計画により、花見・紅葉狩り等に出かけたり、家族の協力を得て外泊・旅行・墓参り等へ出掛けていたが、今年は新型コロナ渦の影響を受け、家族との面会や外出はセーブされている。気候のよい日に事業所周辺の散歩や菜園の作業等で、気分転換やストレス解消を図っている。なお、11月より、リモートによる面会を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いとして預かり、ホームで管理している。買い物時や外出時に本人様が支払う機会を持ち、職員が同行支援している。4名の方が自分で財布を持ち移動販売車で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が3名おり、ご家族様や用事がある時に連絡をとっている。手紙を書かれる方もおり、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に鉢物を置き、食堂には季節の花を飾り、掲示板には季節ごとに飾りを変え、誕生日、行事の写真や入居者様の作品を飾っている。室温調整、カーテンでの光の対応、テーブル、椅子の配置を工夫し、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	食堂・リビング・廊下等の共用空間には、季節の花やクリスマスツリー、利用者手作りのパッチワークが飾られている。また、密にならないようテーブルやイスの配置に工夫を凝らし、ゆったりとした居心地の良い空間が作られている。光・音・温湿度・衛生の管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で寛いで過ごせるようにソファやテーブルの配置を変えたり、居室に引き思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族様の協力を得て、本人様の馴染みの物を置いたり、大切にしている家族やペットの写真や飾っている。思い出の品があることで穏やかに安心して過ごされている。	家族と相談の上、自宅で使い慣れた馴染みのテレビ・テーブル・椅子・衣装ケース・手押し車等を持ち込まれ、また、自作の工芸品や家族の写真、神社のお札等を飾り、落ち着いたある自分らしい生活環境を構築している。なお、居室の清掃や温湿度、換気は定期的に実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室の家具の配置、ベッドの位置、高さ、手すりの設置等をその方に合うようにご家族様と相談し、安全に快適に過ごして頂けるようにしている。		